

いまかね

今金町農業協同組合

2012

9

vol.443



実いの秋

収穫本番

第26回 J A 夏祭り

8月3日、毎年恒例のJ A納涼夏まつりが開催されました。今年は気温が低かったため、来場者の減少も懸念されましたが会場は寒さを吹き飛ばすような熱気で大盛り上がりでした。お楽しみのビンゴ大会ではテレビや折りたたみ自転車など豪華景品が目白押しで大賑わいとなりました。また、ゲストの武山あきよさんが持ち前の美声と歌唱力で会場を沸き立ててくれました。今年で26回目を迎えたJ A夏まつりですが多くの組合員様、町民の皆様の憩いの場としてご提供させていただけたことを役職員一同大変嬉しく思っております。



青年部夏季勉強会



8月1日 JA今金町青年部夏季勉強会が農協2階大会議室にて行われました。

今回はホクレン肥料より米田光弘氏を講師に招き、「肥料と施肥の基礎」をテーマに肥料についてや草地の肥培管理について、また土壌診断の必要性についてなど、作物を育てる上での基礎となる部分について講義して頂きました。

当日は青年部員13名、JA職員8名が参加し、参加した青年部員からは「こういった場合はどうしたら？」など、日頃営農している中で感じた疑問や問題などについて多くの意見、質問が交わされました。今回の勉強会は、「農業に従事して日の浅い若手農業者に基礎的な部分を勉強出来る機会があれば」という要望から始まりました。部員のみなさんの意見や希望は青年部活動を形成するには必要不可欠です。こういう事がしたい、こういったお話が聞きたいなどの要望があれば是非お聞かせください。

青年会議国際交流夏の集い



▲セーギさん



▲キンコンさん



▲ケリーさん

毎年今金町では1週間という短期間ですが、留学生の受入を行っています。

今年度も留学生達は町内で様々な体験をしましたが、8月27日 JA青年部も所属している今金町青年会議主催の歓迎交流会が行われ、参加者のみなさんとの交流を深めました。

留学生はアメリカの「ケリー」さん、中国の「セーギ」さんと「キンコン」さんの3名。

今金町で採れた新鮮な農作物や北海道名物のジンギスカンに舌鼓を打ちながら、それぞれ自分たちの生まれ育った国がどんな所か発表する機会もあり、お互い違う国の文化に触れることの出来る良い体験となったようです。

いいとこ祭り ～芋拾い体験ツアー～



いいとこ祭りの一環として8月19日に芋拾い体験ツアーが伊藤良智さんの圃場をお借りして行われました。ツアーには開始時間前に来る気合い十分なお客さんもいて、前々から楽しみにしていたようです。参加者の中には袋から溢れるぐらい詰めるお客さんや何回も参加するお客さんなど「今金男しやく」に魅了されたお客様で賑わいました。





営農情報



「新じゃが」「今金男しやく」出荷スタート



今金町のNo.1特産物「今金男しやく」の出荷が8月8日より始まりました。今年の馬鈴薯はライマン俣（でんぷん質）が高く、ホクホク感・甘みが一段とあ

り、また形状も非常に丸く男爵らしい姿をしています。販売環境は当初より、府県産在庫が多く残り今年は厳しい販売環境となるという情報でしたが、販売課職員のたゆまぬ努力により初値2,000円からスタートし8月は平年並程度の販売価格となりました。9月以降も平年並み程度の価格を期待したいところですが、北海道産出荷の本格化に伴い消費地では徐々に荷動きが鈍くなっているとの事です。この厳しい環境を乗り越える為にも、組合員の皆様には更なる農協への結集をお願いし、価格の上昇に努めていきたいと考えています。

大根作付 お願いします!!!!



檜山北部広域大根部会では1年を通し、様々な時期に適した品種の栽培試験を行っています。今年度も12圃場で「MR X-915（春の若）」「A-1」

「萌ひびき」「夏風」「MSR-939」「郷ひびき」の6品種を試験しており、各品種の欠点や長所、また病害虫への抵抗性等を調査し、今後の品種の選定や良品質な大根の生産に役立てるよう努力しています。生食大根については、現在、大幅に面積が減少しています。有利販売につなげるためにも是非、皆様のご協力を承りたくお願い申し上げます。

平成25年度の大根作付希望は、営農部農業経営課 山内までお願い致します。

道南地区水稻直播 夏季研修会開催



北斗市にて、道南地区の水稻直播耕作者、関係者及び水稻直播に興味を持っている方々を対象とした夏季現地研修会が開催されました。

今年度試験的に開始された乾田直播栽培や奨励品種現地調査、また直播栽培用の新しい除草剤の効果等、実際に現地の圃場を確認しながら直播栽培に関わる新しい技術や試験についての研修が行われ、参加者のみなさんも真剣な面持ちで研修に取り組んでおりました。

この研修会は毎年夏季と冬期の2回開催されております。直播栽培に興味があるという方はぜひ一度参加してみたいはいかがでしょうか。

無人ヘリコプター 始動!!!



今年の無人ヘリコプターによる水稻の薬剤散布が7月31日から実施されました。無人ヘリコプター防除は、労働力の軽減、効率的かつ経済的な省力技術として

今金町でも取り組んでおります。また、今金町無人ヘリコプター利用組合では今年から力を入れているYes! cleanに対応した薬剤の選定を行っており安心・安全で品質の高い農産物の生産にも対応しています。今年の病害虫発生状況はアカヒゲホソミドリカスミカメの発生がやや多く、いもち病が若干発生しています。まもなく収穫の時期なので、刈遅れのないよう適期刈取に努めましょう。

平成 24 年度病害虫発生予察情報 9 月号では、9 月の天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率とともに 4 0 %、降水量は平年並の確率が 4 0 %と予報されています。

これまでの発生状況と季節予報から、多発生が予想される病害虫は、水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメ、てんさいの褐斑病、あぶら菜科野菜のモンシロチョウ、コナガがあげられます。

普及センター情報9月号

()は、9月1日作況調査の平年値との遅速日数

	今後の農作物管理		今後の農作物管理
水 稻	生育(早4日) ・収穫・乾燥調製の準備しましょう コンバインや乾燥機等の整備・清掃を進め、二段乾燥を行うため初倉やフレコン確保など、準備をしましょう。 ・収穫適期の判定 適期判定は、ほ場単位で平均的な場所から数株を刈り取って、脱穀した籾を天日などで乾燥し、適期判定を受けましょう。青未熟粒の割合が多かった場合は、3～4日後に再度試し刈りして適期判定しましょう。 ・収穫作業 稲や籾の水分が高いと、作業能率の低下や穀粒損失、損傷粒、選別不良の原因となります。降雨直後や早朝、夜間など葉に露の付着時の収穫作業は避けましょう。 水稻の異品種混入を回避するため、品種が変わる度にコンバイン・乾燥機・初倉・グレーダー等を清掃しましょう。 ・乾燥・調製 籾水分が多く、外気温が高いほど、ヤケ米の発生が多くなります。収穫した生籾は長時間放置せず速やかに乾燥を行いましょう。 胴割粒の発生を防ぐために、毎時乾減率は0.5～0.8%を守り急激な乾燥を避けましょう。 二段乾燥は、一次乾燥で籾水分を18%程度に落として1日以上貯留し、十分に籾水分の均一化を図った後に、玄米水分が14.5～15%になるよう仕上げ乾燥しましょう。	畑 作	小豆(±0日) ・最後の防除を行いましょう 莢の中に侵入し食害するフキノメイガ(アズキノメイガ)の発生が見られます。収穫前最後の防除を行いましょう。 灰色かび病の発生が見られるほ場では、その防除も一緒に行いましょう。その際、薬剤の使用時期(収穫前日数)に十分注意してください。 ・時期を逃さず収穫しましょう 収穫の目安は、にお積みする 場合:熟莢率70～80% コンバイン収穫の場合:熟莢率100%及び 子実水分16～18%です。 収穫遅れは、子実水分の低下による損傷粒の発生・品質低下を招きます。また、脱粒による収穫ロスにもつながります。基本的に茎葉より子実水分を優先し、収穫遅れのないように作業を行いましょう。 てんさい(早3日) ・褐斑病の防除 褐斑病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延します。天気注意到意し、散布間隔があきすぎないように引き続き防除を継続して行いましょう。
畑 作	秋まき小麦 ・は種時期が近づいています。は種日・は種量を守ろう。 茎数は多くても、少なくとも多収には結びつきません。 は種適期:9/18～9/24 は種量5～6kg/10a 遅まき:9/25～ は種量6～7kg/10a (今金アメダス平年値 千粒重39.5gで計算) は種機の調節をきちんと行った上で、は種しましょう。 ・除草剤について 雑草の種類によって、散布時期や除草剤の種類を決めましょう。特に、イネ科雑草に対しての除草剤は、秋のみの使用となっていますので、散布時期を逃さないように注意が必要です。また、越年雑草も秋に除草剤処理することにより、効果が高くなります。 ばれいしょ(早1日) ・打撲を防ごう! 収穫物のキズや打撲は品質劣化につながります。これを回避するために、収穫機械の調節・整備、特に緩衝材部分の調整を行いましょう。また、収穫時にコンベヤの回転速度・堀取り刃の深さを調節しましょう。 収穫は茎葉処理後10日以降、ほ場が乾いた晴天の日に行いましょう。寒い日に行うと打撲が多くなります。 ・収穫後のほ場整備に努めましょう。 速やかに次の作物に入れるように、緑肥のは種や堆肥散布などのほ場の整備を行いましょう。また、収穫後のほ場に残った小イモは拾い上げ、野良生え防止に努めましょう(野良生えは病害虫を増加させる大きな要因です)。 大豆(早2日) ・マメシクイガ防除の徹底 普及センター設置のフェロモントラップに飛来が確認されています。マメシクイガによる収穫物の食害が年々増えています。全道的に発生自体が増加していますので、防除を徹底しましょう。 ・ほ場に「イヌホオズキ」が生えていませんか? 大豆ほ場に限らず、イヌホオズキの生えているほ場が見られます。収穫時に黄大豆の汚粒源となりますので、収穫前に全て抜き取りましょう。 イヌホオズキ(ナス科、1年草) 8～9月に白い花が咲き、実は丸く、熟すと黒くなります。この黒い実が大豆収穫時に汚粒源となります。近年はイヌホオズキに特に効果がある除草剤も販売されています。	畜 産	牧草(早3日) 飼料用とうもろこし(早4日) ・残暑対策 9月は昼夜の気温差が大きく、畜舎内の湿度が高めに推移します。残暑が予想されるため、引き続き扇風機で牛体に風を当てたり、トンネル換気等で畜舎内の温度や湿度を下げ、牛のストレス低下を図りましょう。 ・飼料用とうもろこしの適期収穫 ほ場で子実熟度を確認し、黄熟期を目標に計画的に収穫しましょう。未熟なとうもろこしは、軽い霜なら登熟が促進されるので、可能な限り調製を遅らせましょう。切断長は黄熟期で10mm程度、完熟した場合や霜により葉が枯れ上がったものは5mm程度にしましょう。
		園 芸	ブロッコリー 花蕾腐敗病がほ場内で散見されます。「スターナ水和剤」や「Zボルドー」、「コサイド3000」等で予防的に防除を行いましょう。 だいこん・こかぶ 引き続き、コナガ及びアオムシの発生が多くなっています。使用時期に注意し、適正に防除を行いましょう。また、軟腐病の発生もみられるので、「バリダシン液剤5」や「スターナ水和剤」等で予防的に防除を行いましょう。 にんじん 黒葉枯病は、肥大中～後期(は種後70～80日)に発生しやすい、主要病害です。収穫までの日数を考慮し計画的に防除を行いましょう。 また、この時期は収穫前の降雨による「割れ」の発生が多くなります。水稻や馬鈴しょの収穫作業と競合する時期ですが、天候を見ながら、適期収穫を行いましょう。 軟白長ネギ 9月に入ると気温も下がり始め、サビ病の発生が心配されます。風雨により葉が傷つくと発生しやすく、注意が必要です。 ミニトマト 樹の生育が緩慢になるとともに肥料、水の必要量も減ってきます。9月以降は、かん水を中心に、樹勢を維持するようにし過度な追肥による着色不良や遅れを防ぎましょう。 一方、夏を過ぎ、樹勢が落ちると、うどんこ病の発生が心配されます。特に昨年発生したほ場では引き続き出やすいため注意し、「アフエットフロアブル」「トリフミン乳剤」等により灰色かび病との同時防除を行いましょう。

海外視察研修報告

JA今金町 専務理事 内ヶ島 道良



今回、道南・後志・日胆・石狩4地区農協専務会の海外研修に参加させて頂きました。この4地区の農業は比較的中小規模経営であり水田・畑作・酪農畜産・野菜・花卉など多様な農業経営を展開しておりますが、農業の国際化、農政の大転換、農村人口の減少・高齢化、食の安全・安心などに対応し、持続可能な農業を確立することが求められております。更には世界的な食料需給のひっ迫、TPP交渉の検討など、農業だけでなく「国のかたち」をも変えかねない情勢にあります。

このような情勢下において、自国の農業の持続的な発展と食料安全保障の方向性を堅持している諸国の農業情勢を研修し、4地区管内の農業振興の一助とすることを目的として、イタリア・スイス2カ国の4農場・乳製品工場・卸売市場・スーパーマーケット等を、7月7日から14日まで8日間の日程で総勢16名で研修して参りました。

スイスでは農場視察が主でありました。スイスの農業は、他のヨーロッパ諸国よりも農家経営規模が小さいのが特徴です。農家に対しては国が補助金を支払う直接所得補償があります。支払われる金額は農業規模や経営状態によって異なり、環境保全農業や有機農業を行う農家に対してより多くなっており営農の中核を成しております。

農場視察先の一つを紹介します。スイスのベルン郊外にある有機栽培を行っているハイメンハウス農場では耕作面積が17haで従業員10名、小麦・レタス・トマトなど、スイスで扱われている作物のほとんどを生産・販売しています。また、畜産も行っており15頭の乳牛を飼育し乳牛1頭当たりの搾乳量は年間5kg程とのこと。スイスでは農産物の95%が「環境にやさしい農法」として環境保全農法（IP農法）と有機農法（Bio農法）で生産されており、国際間競争で生き残るための戦略として品質に特化した農産物の生産に努力しています。研修先のハイメンハウス農場でもIP農法を取得し、スイス国内の消費者の理解・信頼もあり根強い人気を得ています。

イタリアでは卸売市場・スーパーマーケット等を視察しましたが、ここでは卸売市場について紹介します。視察した卸売市場はローマ郊外にあるローマ農業食品卸売市場（CAR）で中部イタリア最大の卸売市場としてローマ周辺約530万人の食を預かっており、年間取引額は1,000億ユーロとなっています。年間にすると約75万tの野菜・果実、3.5万tの水産物が取引されており、日本向けのマグロも取引されているとのことでした。このCARは公設施設で、価格形成にも関与し毎日価格をチェックしながら不当価格にならないよう標準的価格を提示していますが、市場は場所の提供（賃貸料あり）のみで取引自体には関与せず代金決済も売り手と買い手の当事者間で行われています。また、中に衛生局も入っており生産物の衛生面、品質面もチェック機能がなされておりました。



研修させて頂いたスイスではIP農法・Bio農法による高い独立性、イタリアではEU共通農業政策のもと、それぞれ自国の食糧政策と農業政策に一貫性をもって対応しておりました。一方、我が国においては農業政策に対する根幹が明確ではなく、特に食糧基地である北海道農業のこれからの視点が見えない状況にあると思います。私自身専務就任初年度であるのもかわらず、大変貴重な体験をさせて頂きました。当農協を取り巻く環境としては、TPP交渉等農畜産物自由化に向けた動き・組合員の高齢化・生産物価格下落等からの農家戸数の減少等問題が山積しております。微力ではありますが、組合員皆様のご理解とご協力を頂き、常務とともに組合長の補佐役として事業運営にあたりますことを申し添え、今回の研修に参加させて頂いた報告と致します。

NEXT GENERATION

新世紀の担い手たち

稲穂地区 藤倉 英樹さん〔30歳〕



今金町を担う若者たちを紹介するコーナー。第9回目は藤倉英樹さんをご紹介します。

藤倉さんは高校卒業後札幌で就職していましたが今金町に戻り就農、農業に従事して今年で10年目になります。地域の活動にも積極的に参加しており、これからの更なる活躍に期待大です！

《プロフィール》

藤倉 英樹（ふじくら ひでき）30歳

北海道檜山北高等学校卒業（就農10年目）

《経営作物》 水稻、小豆、

馬鈴薯、大根

《家族構成》

藤倉 久雄（父57歳） 美恵（母57歳）

道子（祖母89歳）

《農業について感じる事》

就農して今年で10年になりますが、農業は難しいの一言につきます。毎年の気象や状況、ふとした事が作物には大きく影響していきますので、いかに良い作物を多く作っていくのかを考えると、知識や経験も重要なことだと強く感じます。そんな農業ですが自分の行動や考え、また努力の結果が直接反映される所に魅力を感じています。今はいかに自分が今金町の農業に貢献していけるか、今後の経営方針などを学びながら日々努力して行きたいと考えています。

《趣味》 車

《余暇の過ごし方》 ドライブ、バーベキューなど

《今後の夢》 まずは現状の経営を維持する事が第一ですが、これから先を考えると経営規模は確実に拡大していくと思います。実際に面積が増えた場合どのように経営していくのか、例えば新しい栽培技術や機械の導入等も視野に入れ、将来の経営をより良い形にしていこうとがこれからの目標です。

お知らせ

「さっぽろオータムフェスト2012」出展



9月14日(金)～9月30日(日)まで札幌市大通公園で開催となる『さっぽろオータムフェスト2012』に9月21日(金)～9月24日(月)までの4日間、大通公園8丁目会場”ふるさと市場”にて今金町が出展いたします。今金町出展ブースでは農産物を中心に美味しい特産品をたくさんご用意しておりますので、札幌市周辺に滞在されている知人等への声かけ等宜しくお願い致します。



日本農業技術検定開催



日本農業技術検定は、農業後継者や農業関係者に係わらず広く一般に農業についての知識・技能の水準を図り、教育研修の効果を高めることを狙いとしており、これからの農業を担う人材の育成・確保に欠かせない検定として関係機関から注目されています。私たちJA今金町農業経営課からも営農指導のスキルアップを図るために本年より職員有志によって、日本農業技術検定を受験しました。受験してみて普段の営農指導の内容を再確認出来た事は、試験の可否に関わらずスキルアップに繋がったと思います。今後も合格者は更に上を目指し、惜しくも不合格者だった者は再挑戦したいと考えています。

平成24年12月15日(土)に第2回日本農業技術検定が実施されます。私たちと一緒に農業技術検定を受けてみませんか？応募締切は11月5日までとなっています。「受験をしてみたい！」と考えている方は農業経営課までご相談ください。

詳細はホームページをご覧ください。



営農部禁煙へ



すでに健康増進法が施行されていますが、「多数の人が利用する場所では、受動喫煙を防止するために必要な措置を講じなければならない」とのことから、施設の禁煙や分煙が社会的に求められています。そこで、当JA内においても受動喫煙を防止する取り組みを強化するべく、今年8月13日より禁煙箇所を拡大しました。営農部は、事務所内を全て禁煙とし、喫煙場所は2F休憩室・応接室・屋外としました。これに伴って事務所内の灰皿は撤去していますので、来所の際はご注意願います。また、本事務所はこれまでと同様の取り組みとなっています。

喫煙される方に対しては不便をお掛けしますが、社会的な風潮でもあり、職員の健康増進の為に必要な措置となっていますので、ご理解の程をよろしくお願い致します。



JA今金町HPブログ更新中

URL: <http://ja-imakane.or.jp/> 見てね

